

令和5年度 校内研究の概要

1 研究主題

主体的にいきいきと学ぶ児童の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指す学習の工夫～

2 主題設定の理由

社会の急激な変化を受け、都市化や過疎化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化等を背景とした地域社会等のつながりや支え合いの希薄化により、「地域の学校」「地域で育てる子供」という考え方が次第に失われてきている。児童においても、人間関係が希薄となり、お互いの良さや違いを認め合う気持ちがもてなくなり、不登校、いじめ、規範意識の低下等、本校でも憂慮すべき状況がある。また、児童の多様化により、これまでの一斉指導では児童の学習意欲が低下することが考えられる。予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身でいるのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人ひとりが自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。

本校では、昨年度に「仲間とつながる対話活動の工夫」という研究主題で、職員が自分の研究を進めていききたい教科を選び研究を進めてきた。昨年度の研究を通して、以下のようなことが明らかになった。

- ① 児童と児童をつなげる手立てを工夫することで、意欲的に学習に取り組んだり、児童が考えをより広げたりすることができた。
- ② 対話活動を行う場の設定を工夫することで、児童が安心して対話活動に取り組んだり、意欲的に学習に取り組んだりすることができた。
- ③ 対話活動における児童の考えを視覚化することで、児童がスムーズに活動をしたり、児童が考えを整理したりすることができた。
- ④ より良い児童同士の関係や学級の支持的風土をつくることで、児童が安心して対話したり、活動にいきいきと取り組んだりすることができた。

昨年度の研究を通して、児童同士が繋がり、より良い関係を築いている様子も以前より見られるようになった。しかし、うまく自分の気持ちを言葉で伝えることができずにトラブルになってしまったり、児童が話を自分達だけで進めることができなかつたりして、児童主体での対話活動が成り立たない状況が生まれたり、教師主導の活動となってしまうこともある。また、学習に対して目的意識や意義を感じていない児童も多く、授業中に学習意欲が湧かない児童もいる。

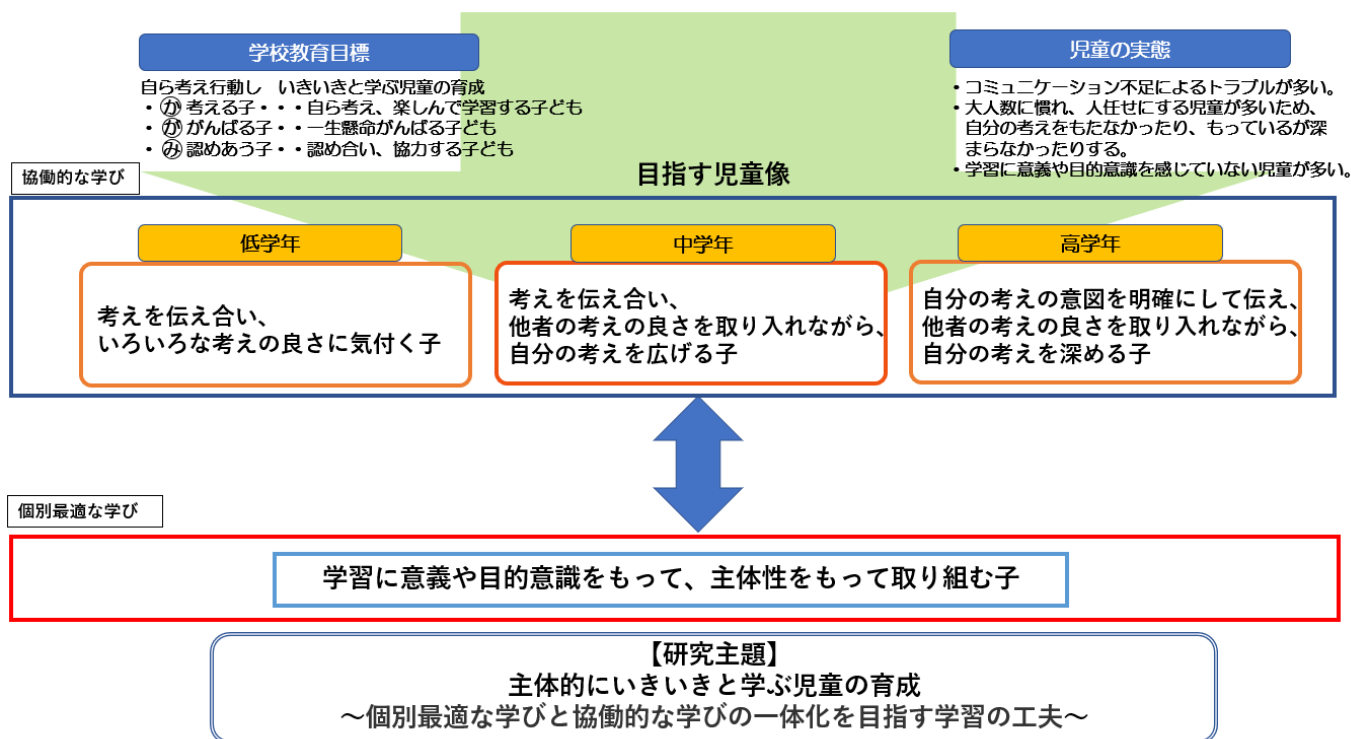
そこで、今年度は「主体的にいきいきと学ぶ児童の育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指す学習の工夫～」を研究主題とする。昨年度に引き続き、授業での対話活動の改善を図り、児童の実態に応じた手立てや工夫を取り入れた実践研究を行うことで、自他の考えを深めたり、主体的な活動ができたりする児童の育成を目指す。また、個別最適な学びの観点を取り入れることで、児童の学習意欲の向上にもつなげていきたい。

今年度は、学年グループの興味・関心がある教科について研究したり、他の教員の研究をすぐに実践できるような環境を整備したりすることで、それぞれの教員がより、意義を感じるような校内研究を進めていく。

3 研究の目標

児童が主体的に対話活動に取り組み、考えを深めることができるような、個別最適な学びと協働的な学びの観点を取り入れた学習活動の在り方を探る。

4 研究の構想図



5 研究計画

(1) 具体的な取組内容

- ① 研究推進部会において、発達段階に応じた目指す児童像を明確にしていく。
 - ア 新学習指導要領や本校の児童の実態から目指す児童像を明らかにしていく。
 - イ 研究推進部員を中心として、全職員の目指す児童像の共有化を図る。
- ② 学年グループで実践する教科を決め、継続して取り組み、成果や課題を把握する。
 - ア 考えを深める対話活動の工夫を考え、年間を通して実践する。
 - イ 授業中の児童の様子やノートやワークの記述等から、対話活動の工夫を修正する。
 - ウ 「個別最適な学び」の観点での工夫を考え、年間を通して実践する。
 - エ 学年グループに分け、進捗状況の確認や意見交換等を行う。
- ③ 教員それぞれの取組を共有するための環境を整備する。
 - ア 教員一人ひとりが実践授業を行い、実践の分析を行う。
 - イ 授業公開については、掲示板で示し、気軽に参観できるようにするとともに、授業者に意見等がフィードバックできる環境を作る。(略案・授業後のチェックシート等)
 - ※ 45分間の授業をすべて見に行くという意味ではない。
 - ウ 実践後に研究内容や児童の変容を振り返り、各学年で校内研究のまとめを作成する。
- ④ ①から③までの取り組みを分析・評価し、成果と課題を見出す。
 - ア ③ウの報告を全体で交流し、今後に生かす成果、今後取り組むべき課題を整理する。
 - イ 1年間の研究の過程を、研究冊子 (PDF) としてまとめる。

(2) 研究組織

研究推進部部員で組織する。必要がある場合は校長、教頭、主幹教諭、教務を加えて拡大研究推進委員会を開く。また、特別支援部との連絡調整は適宜行う。

【役割分担】

- ・校内研 全体構想（緒方・久浦）
- ・アンケート（荒木・牧瀬）
- ・授業参観シート・フィードバックシート（竹下・古川）
- ・研究のまとめ（緒方・久浦）

(3) 日程

月	日	曜	内容(◎校内研、□部会、★授業研、・職員会議等)	備考
4	4	火	□6 部会(研究についての提案)	
4	5	水	・職員会議(研究についての提案)	
4	13	木	□6 部会(授業参観シート・フィードバックシート・アンケートについて)	
4	19	水	・職員会議(校内研究の説明・・個別最適な学びについて)	
5	22	木	□校内研(グループ分けについて・公開授業について・アンケート等)	
6	11	火	◎校内研(校内研のグループ分けについて・グループの話し合い)	
6	22	木	◎校内研(提案授業・今年度の研究について・講話)	講師招聘
7	21	木	◎校内研(校内研究のまとめについて・スケジュールについて 実践授業の準備等)	
7	31	水	◎校内研(各グループの話し合い・取り組み予定の発表)	
8	3	水	◎校内研(実践授業の準備等)	
8	30	金	◎校内研(公開授業についての確認・参観授業の決定)	
			☆公開授業期間	
10	10	火	◎校内研(講話②校内研の取り組みについて)	講師招聘
12	5	火	◎校内研(講話②校内研のまとめ)	講師招聘
12	6	水	・職員会議(校内研に関する今後のスケジュール共有)	
1	17	水	◎校内研(研究のまとめ)	
2	22	木	□6 部会(拡大研究推進委員会・来年度の研究について)	
3	6	水	・職員会議(来年度の研究について)	